

しあわせ

11 月 号



し かい いちにん ねんぶつ みよう
此界一人念仏名
さいほう べんう いちれんしやう
西方便有一蓮生

この界に一人、仏の名を念ずれば
西方にすなわち一の蓮ありて生ず

（法照禪師）
ほつしようぜんじ

「手を合わす母」

九月一日開かれたハワイ大火災の犠牲者追悼式典で、本堂が大火にのみ込まれたラハイナ本願寺の広中開教使は「人々は傷つき、今も泣いている。街では、共に泣き共に抱き合って必死で支え合っている。ラハイナのコミュニティのつながりは確実に強く、太くなった。傷ついた者は、他者の痛みに少し敏感になり、その痛みがわかる者たちが近い将来、新しいラハイナの街を創ってゆく。アロハの精神に最も近い町ができるかもしれない。そんな慈悲にあふれる街は、ラハイナ本願寺の希求するところと合致する。」と参拝者に語りかけた。

そして「苦しみにあえぐ私達に、その苦しみを抜き、楽を与えようとはたらき通しの阿弥陀仏という仏がおられる。阿弥陀様は声の仏『ナモアマダブツ』となつて私たちに届いている。お寺・ご本尊すべてが燃えてしまつたが、その声は今まさに輝き、私を照らし、わたしたちを抱きしめ続けて下さっている」と語りかけた。

「念仏は無碍の一道なり」親鸞さまのお言葉が響く。

法座案内

△仏婦・仏社合同研修会 △
十一月 二十七日（月） 午後一時半より
仏教漫才 アサカラザル

△法味の会▽

十一月 二十四日（金） 午前十時～
法話 住職

△報恩講法要▽

十二月 十日（日） 昼席
十一月（月） 朝席・昼席
講師 内藤昭文師
（本願寺派司教）

府中町山田二丁目一五十三
栢原山 龍仙寺
電話（〇八二）二八二四八二



今月は親鸞さまが主著のなかで引用されている中国の法照禪師の法語をご紹介します。

しかいちにんねんぶつみょう
さいほうべんういちれんしょう
此界一人念仏名
西方便有一蓮生

この世に一人念仏の人が現れるならば、西方の浄土ではただちに一つの蓮が生じるのである。と、なんとも情感ゆたかな法語です。

わたしたちはともすれば、お念仏称えれば浄土に生まれられるのですか？と考えてしまいがちですが、それはお念仏の発信源が自分だと思っているからです。しかし親鸞さまは、浄土から届いてくださっている如来の仰せとして、お念仏を仰がれました。お月さまから届いている光がお月さまを見せてくれる。おなじように、浄土から届いてくださっている言葉が、浄土という世界をひらいてくださる。お念仏は浄土から届いているからこそ、念仏者はすでにこの世において、浄土に生まれることが決定しているのだと。

そしてお経には、浄土に往生する人は浄土

の宝池の蓮のなから生まれていくのだと説かれています。ですから、わたしがこの世で念仏申すならば、ただちに、西方の浄土には一つの蓮が生じている。わたしがその中から生まれていく一つの蓮が、お浄土には生じているのですよと法照禪師は仰っているのです。

このご法語にまつわる、くまがいなわざね熊谷直実の有名な逸話があります。あるとき直実は、京の都から故郷の武蔵の国に帰る途中、藤沢の宿で一泊することにしました。ところが慌てて出立したらしく、財布をわすれ、仕方なく宿屋の主人平兵衛にお金を借りることにしました。「平兵衛よ、わしは路銀を忘れて出てきてしまったゆえ、一貫文ほどお貸し願いたい。ただし、わしは何も質入れするものを持ち合わせぬ。よって念仏を十声、質入れいたそう。」「失礼ですが熊谷さま、念仏など千遍・万遍称えていただいても、一文にもなりません。」

「平兵衛、わしの念仏はただの念仏ではない。一声称えれば、一つの蓮を生じる念仏じゃ。」そういつて直実が十声念仏を称えようと、庭先に十茎の美しい青蓮華が生じました。

「なんと熊谷さまは弘法大師の再来でしょうか。路銀ならいくらでもお持ちください。」そう平兵衛は言いましたが、直実は約束の一貫文だけ借りて、旅立っていきました。

故郷での所用をすませた直実は、京都へ帰る途中、また藤沢の宿へ立ち寄ります。

「平兵衛、借りておった一貫文を返すゆえ、質入れしていた念仏を返してもらおう。」平兵衛は「お金はけっこうございます」と言いましたが「それはならん」ということで、平兵衛はお金を受けとり、お念仏を十声称えて返しました。すると一声称えるたびに、咲いていた蓮が一つ一つ消えていきます。

「熊谷さま、この蓮がすべて消えるのはあまりに惜しい。一つだけでも残してください…」

懇願する平兵衛に、直実は説き聞かせました。「この世は仮の宿、きのう咲いた花も、今日には散る。娑婆にかりそめの蓮を咲かせるよりも、浄土に永遠の蓮を咲かせよ。ただ本願を信じて念仏申せば、ただちに西方浄土に蓮を生ぜしめること、疑いない。」

これはまさに法照禪師の法語ですね。直実は、自分がつねに好んでいた禪師の法語を、そのまま平兵衛に伝えたのでしよう。

しかいちにんねんぶつみょう
さいほうべんういちれんしょう
此界一人念仏名
西方便有一蓮生

念仏者は必ず往生する身として決定しているのであり、私たちがいただく一声一声のお念仏に応じて、浄土では一々の蓮が生じている。わたしの予約席が、もう浄土には確保されているということですね。それは、お念仏こそが、浄土から届いている如来の仰せであつたからです。ともにお念仏いただきましょう。今ここに如来の仰せが届いています。